

所属・資格 心理学科・助教

申請者氏名 北村 世都

研究課題		高齢者の心理的援助に関する研究4
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>高齢社会を迎えた我が国において高齢者およびその関係者への心理的支援の可能性が期待されている。しかし、一方で心理的支援の実践者が少なく、教育体系やその内容について検討する必要がある。これまでの調査において、福祉職が行なっている心理的支援では、心理学理論が十分に踏まえられないままであることも多いことが明らかになっているが、心理職が行う心理的支援には、心理学的な妥当性が求められており、早急に体系化が必要である。</p> <p>そこで、高齢者への心理的支援の実態について、福祉職、心理職を対象にヒアリング調査を実施する。特に多職種連携における課題、コンサルテーションの可能性、基礎教育への要望、今後の高齢者心理臨床への課題等について明らかにした。</p>
	研究の結果	<p>福祉職10名、心理職5名を対象にしたヒアリングの結果を質的に分析した結果、以下の点が明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在は社会福祉士や介護福祉士などの福祉職が相談業務を担っており、心理支援の一部を担っているものの、心理学における理論的根拠は不十分なまま実践されていること。</li> <li>2 心理職において、他の専門職の役割や目的の把握が十分ではない場合、多職種が連携にあたって難しさを感じていること。</li> <li>3 心理職では、福祉職の想定よりも福祉職を自分の専門性とは遠いと感じており、福祉職を相談援助職と認識していない場合があること。</li> </ol> <p>以上の結果から、心理職に対する教育において、他の専門職が実際にどのような業務に従事し、その中で心理支援を行っていることなどの知識を普及させる必要があると考えられた。</p>
	研究の考察・反省	<p>高齢者に対する心理支援は、他の世代の心理支援と異なり、心理職の側に業務や職務として認識されていないことが示された。これはむしろ、心理職におけるエイジズムの可能性すらあり、学部教育から、高齢者支援に関する臨床の実際や可能性を伝えてゆく必要があると考えられる。</p> <p>一方、特に臨床心理学の教員においても、高齢者に対する支援に関して知識や経験があるものが少なく、そのことが学生のエイジズムを助長している可能性もある。</p> <p>高齢者における心理支援においてはむしろ、認知や知覚の基本機能の理解、加齢に関する医学的・社会的理解にもとづいた支援が望まれることから、基礎心理学をより積極的に生かした心理支援の在り方を今後提案する必要があると思われる。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 日本老年社会学会「心理的支援を必要とするケア行動と介護職員の共感性の関連」2018年6月9-10日/東京 2019年発表予定（日本心理学会）</p> <p>研究成果物 なし</p>	